



発行所 東京都千代田区神田猿樂町1-7 三笠産業株式会社 電話東京04代0141~5

創立二十六周年を迎えて

三笠産業株式会社 取締役社長 京谷弘道



京谷弘道

皆様のお蔭で、あのむき苦しい、バラツクのオフィスから新築のビル入りが出来て、幾年振りかではつとしい思いがする。

人間である以上、たとえ具体的にこうだ、と云えなくとも、或る何か一つの目標があつてもよい筈である。しかしお互いに、抱いてゐる目標は、全じではない、或る人は天下を取ろうと思つてゐるかもしれない、又或る人は今の月給が倍になればと願つてゐるかも知れない、正に千差万別である。しかし段々と先を行けば行くほど、其の目標に色々な副産物がついて来て、やたらに障害を起し、近づけば近づくほど益々むづかしくなると云うのが世の常である。しかしこの副産物も時には又大きなプラスになつて、其の目標に箔をつけてくれる場合もある。私の場合は其の後者かも知れない。

人間の欲望には際限がない、それは副産物が副産物を生み、目標が次第に眼上るからである。しかしこうしたとこに無限の意欲を高ぶらせて、生き抜こうとするのだから正に止どまる所を知らないと云うべきか。

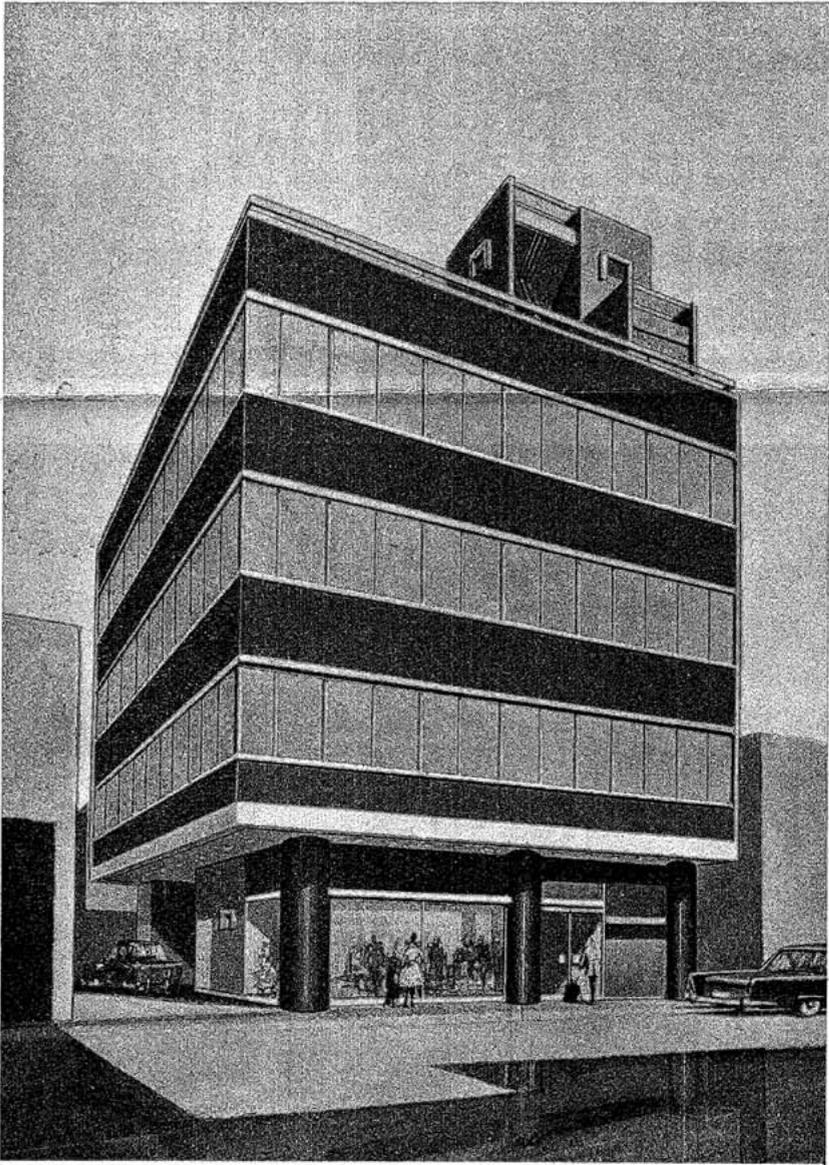
戦争は吾々を、塗炭の苦しみにおとこんだ、然し其のドン底から、色々なものを教えて呉れた、終戦当時の建設機械はアメリカに比較して二十年も遅れてゐたと云うことであつた。たしかにそう云はれれば彼の水陸両用の上陸用舟艇が通ると日本の道路は、見る／＼うちに押しつぶされて、タイヤがメリ込んでしまふと云つた有様だつた、見事戦争に打

ち勝つた名将マツカーサーも、流石に日本の道路には手こずつたらしく、真先に道路を直せと命じたのも当然なことだと思つた。終戦後十六年や日本の建設機械はすつかり成長して驚異的な進歩を遂げ、欧米の機械に比べて殆ど遜色ないまでになつた。日本人は真似をすることがうまいとか云うが、強ち真似がうまいからと云うことだけで片付けてしまふのは妥当ではあるまい、それは日本人の血管の中に流れてゐる或一種異様な負けじ塊とも云うべき所謂不屈の精神が今日の成果を齎らしたのではあるまいか、顧みるに当時の日本の再建目標にも幾つかの副産物が生れ、それが或る場合には障害にもなり利益にもなつた。然し幸い障害の場合よりも利益になつた場合の方が、遙かに大きかつた様だ。其の副産物が日本の再建に大きな役割を果して呉れたことは事実だと思ふ。然し運は寝て待てでは此の副産物は生れない、それは祖先から日本人の受けついで来た勤勉と云う伝統的な国民性の賜に外ならなかつたのではなからうか。即ち働く者は餓えずであり、常に栄光は働く者の上にのみ輝くと云う言葉をしみ／＼と感ぜざるを得ないのである。

とりわけ来年の秋には望久しき東京オリンピックが開催されこれに対応した代表的な鉄道建設工事とも云うべき東海道新幹線が完成され、東京、大阪を僅か三時間で結ぶスマートな夢の超特急列車が登場する他東海道高速自動車道を始めとする全国的な各都市を縦貫高速道路網が次々と完成される見込であり、吾々建設業界に身を挺する者に取つては又とない働き甲斐のある黄金時代が到来したわけである、此処に於て私はこの極めて意義ある年を記念するため敢てこの小新聞を発売して、一人静かに二十六年のたどり来たつた我が道を振り返り必要な代理店メーカーの三者を継ぐ何かの役割を果して報恩の万一にも考えた次第です。

本日の落成披露パーティーには、御多用中のところ懇々御来場の榮を賜り、御懇篤なる御祝詞を寄せられましたことを深謝致します。

三笠産業の本社々屋落成



竣工した三笠本社ビル (透視図) 落成式は四月八日の花まつりの日に屋上で挙行され、同時に当社の守護神である豊川稲荷の御魂入式も取行われた。

昨年七夕まつりの日、神田明神の加藤宮司さんの御司祭で地鎮祭を挙げていただいたから九月月目に見事立派な三笠産業ビルが出来上つた。此のビルは僅かに五十坪ほどの敷地の地下二階地上四階塔屋二階合せて二百五十坪ほどの小さなものだが業界で最も優秀な若手技術者を揃へてゐると云はれる西村建築さんの設計監理と。

戦後かつて米軍の信用を一身に集め、アメリカ式コンクリート建築ではわが国での第一人者として知られてゐる馬淵建設さんの施工と云う詢に豪華なメンパーで進められただけに、中途で外濠川の岸壁にブツツからたり、地下工事には御近所から苦情が出るやうにして相当苦労をされた様だつたが、流石に多年の経験と其の技術に物を云はせて、完工期日までに首尾よく竣工させたことは、天晴れであり、両社に対し心から敬意を表して已まない。

此のビルは我が社で其の全部を使用することは勿論だが、今まで本社と分室が遠く別れ別れになつていて不便だつた点は、たゞこのビルで解消されるので取りわけ出入業者には喜ばれることであらう。今から各階の様様を大略御披露させて頂くことにする。

(地階) 機関及び電気室、倉庫、作業室、作業室にはポーターブルのポール盤、施盤、

グラインダー等が据へ付けられ、何時でも直ぐに緊急修理に間に合う様お馴染の鯉沼係長等が待期している。

(一階) ショールーム、ガレージ、発送所、ショールームには常時三笠製品の主なものが陳列され、ガレージには常時二台の車が入れようになつてゐる。写真で御覧の通りビルに向つて左側一階だけが各階より間口が、ぐつと詰めてあつて其処へ二三台は駐車出来る様にしてあるのも駐車難を毎日頭を痛めてゐる東京マンの気持ちを汲んだ親心でもあらうか。

(二階) 営業部、電話交換室、応接室、(東部地区) 平戸課長と第二販売課(西部地区) 星野課長とに分れ新社屋に移転すると同時に大学出の男女新社員を入社させて両課に配置することになつてゐるので、これ等の社員がセールスマンとして本格的に動き出す様になれる相応大きな成績を挙げるだらうと今後の活躍が期待されてゐる。

応接室は営業用と社内用で二箇所設置されてゐる。隣室は電話交換台で各階は勿論のこと主要なデスクにはそれぞれ電話器が置かれてあつて何事もスピーディーに処理しようとする三笠らしい心構へがあり／＼と見える。



村松専務 (経理部長)

(三階) 技術部、経理部、三号応接室、技術部は吉田常務技術部長の下に昨春以来新製品と取組んでゐるので目が廻るようだが此処には既に松下係長を始め大学出の優秀な技術者が揃つてゐるから心配がない、移転後は当部を実験課と設計課に分けて更に次の新製品に取組む準備を進めてゐる。営業部が二階にあるので何かと便利だからお客様には必ず喜んで頂けると思ふ。

経理部は技術部の隣りで村松専務経理部長の下に会計課と資料課に分かれ、会計課は経理顧問の藤田重役が元格で腰を据え資料課は分室から川口係長が其儘居居つてゐる。此処にも男女の新人が入つて来るのでグウと明るくなることであらう。

技術部の隣りに三号応接室がある。此処は仕事の都合で遅くなつて泊る社員のために応接用の長椅子二個が直ちにベントに早変わりする仕掛けになつてゐる。普段は宿直員を置かないことになつてゐるとか。

(四階) 総務課、社長室、会議室、新たに総務課が誕生して、営業、経理、技術の庶務的な仕事を此処で扱うことになつた。更に云うならば社長の秘書課の様な役割も兼ねてゐるわけだから、社長からの指令の伝達機関とでも云うべきだらうか、人事、厚生、宣伝、営繕、株式等の仕事も此処でやること



京谷専務 (営業部長)

になる。係長は技術部から森設計係長が抜擢された。社長室は、永年社長を狭い所を押し込めていたので、今度は少しでも楽にしてあげようと思ひ遣りか。室内には豪華な応接セットを置き、テレビを据ふ冷蔵庫まで備へた上、ひそかにホームパーティーまで造らせてあると云ふ定めし冷蔵庫の中にはお好きなビールが冷してあることだらうと京谷社長らしい構造が偲ばれて三笠雀の口がうるさい。

会議室は社長室の隣で大勢の人を収容する場合に社長室と会議室の間仕切を取外せるようにしてある。此処では一般会議の外試写会とか説明会とか講演会、代理店会なども使うように考へて作られてゐる。移動式のステージや演壇などもあつて頗る実用的である。

(屋上) 稲荷社、倉庫、クーリングタワー (塔屋一階) 水槽 (塔屋二階) エレベーター機材室 (二階) 展望台

三笠産業ビルの規格
鉄筋コンクリート造、地下一階、地上四階
塔屋二階、延建坪六五三・六〇〇平方メートル
建物面積

地階 一六・二七八平方メートル
一階 一〇八・七〇八
二階 一六・二七八
三階 一六・二七八
四階 一六・二七八
屋上 九三・二〇六
塔屋一階 三〇・六六〇
中階 九・二二〇
二階 九・二二〇

エレベーター設備 納入者 檜崎産業
三菱標準型六人乗用エレベーター (P612S) 45型 (四〇〇キロ (六名))
速度 45 m/min
停止個所 B, 1, 2, 3, 4, R
運転方式 セレクトアップ、コレクティブ

冷暖房設備 納入者 檜崎産業
パッケージ冷房装置 機種 PPF6 WH
容量能力 82500 Kcal/H
(三菱電気製)
ホットエアーファンレス
(協栄燃機工業製) HFC8000型
能力 81 容量 81000K cal/H

冷却塔 (信和産業製)
送風機 No. 2SS 容積 390l/m
No. 5SS 50m/mAg
排風機 No. 5SS 19m/mAg
オイルタンク 1800lB重油
以上



吉田常務 (技術部長)

素晴らしい輾圧力を誇る

大型タンピングランマー

遂に完成!!!

MTR-160型 (2号機)



館林工場内に於て試運転中の大型タンピングランマー

三笠タンピングランマーの一号機は、優れた輾圧力と軽量で安定感があつて、しかも危険がないので、普く全国各地の建設現場で多大の好評を博し、其の売行きは正に驚異的で月を追う毎に生産量を増加しつゝある現状です。其処で弊社は昨春来需要家各位からの御要望もあつたので、これが第二号機とも云うべき大型機の試作を企画し、技術陣を動員して専ら研究に研究を重ねて居りましたが、此の程漸く試作品が完成しましたので、三月末から量産に入ることに四月中旬には其の第一回分を市販することに決まりました。

大型機は標準型の二馬力半の使用エンジンに対し六馬力のものが使用され、輾圧力も四トンから五トンのものが八トンから十トンとなり、自重も六三キロを遙かに上廻る一六〇キロと云う如何にも大型機らしいデラックスな姿と素晴らしい超強力性が窺えて頼もしい限りです。

主な特長を左に掲げて見ます

- (1) 安定性が良く手放しても運転することが出来るから、無経験者でも簡単に操作出来る。
- (2) エンジンに対する防振装置が完全だから故障が起らない。
- (3) ショックを少なくする為め鞍型の防振ゴムがついている。
- (4) フット(衝撃板)の上部にはスピンドルロッドを保護するアコーディオンプロテクター

が取付けられ空気流通部には砂や石が入らないようフィルターが張付けてあつて防塵装置は極めて完璧である。

- (6) 作業を楽にする為め補助ハンドルが取付けられている。
- (7) 飛び上がりのストロークが大きいのでグリ等大きな骨材でもフートのスパイクで簡単に押込むことが出来る。
- (7) 本機には他え移動させるに便なる様に移動車が用意されている。

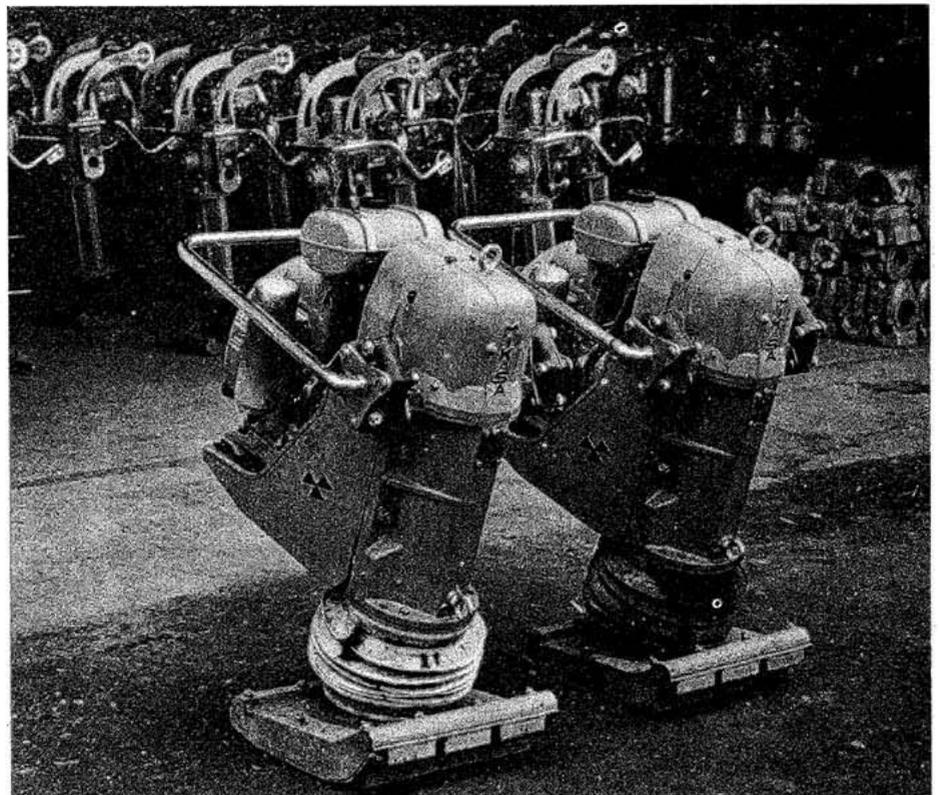
本機は道路、軌道、堤防、貯水地、等の地固や瓦斯管、水道管、ケーブル等の敷設工事に於ける盛土、埋戻などの搗き固めに使用するもので、エンジンを搭載した機体の底部に装置してあるフット(衝撃板)が壊土の表面を連続打撃することにより極めて迅速に、しかも美麗に地固めすることの出来る弊社独特の土建用特許輾圧機です。

一度弊社に於て一号機を製作市販するやたちま業界に多大の反響を呼び、あらゆる工事に使われて次々に好評を博し、今や「三笠タンピングランマー」の名前は全国津々浦々の工事現場知れ渡り、無くてはならない土建機として愛用されて居ります。

既に東海道の新幹線工事にも各所に使用され近く大型二号機も動員される運びとなつて居ります。

型式	機体の寸法	衝撃板の寸法	衝撃するストローク
大型	高さ 1.050m 幅 530mm	440mm × 453mm	400~500

掘き固め積	輾圧力	使用エンジン(富士重工製)	回転数	概重量	電略
300~400m ² /h	8ton~10ton	6 PS	3,200 R.P.M	160kg	ランキ



完成した大型タンピングランマー、後方に並んで見えるのは1号機

日蔭を覗く

どこにでもあることだが、蔭に廻る役割と云うものは余りパットしない、仕事は地味なだけに余り認めて貰へない、それでいて人一倍苦労の多いものだ。昔から椽の下に力餅とか云つて二枚目役者は余り使われない、だが一番蔭の力になつて所謂二枚目の営業運中を喜ばして呉れるのは、設計、修理、荷造、発送配達と云つた蔭の力だ、この蔭の力が止まつてしまつたら皆んなお手上げと云うことになる。殊に今までは狭い所にひしめき合つていたのだから真夏などはまるで蒸風呂の中に入られたも同然で、余りガミ／＼やられると卒倒しそうな位に位だつた。時々分室を覗いて日蔭に働く方々の動静をそれとはなしに覗いて来たが、よくこんな狭苦しい中でこんな立派な仕事が続けて行けるものだと思つても感心させられた、もう新ビルへ入ればそんな苦勞もなくなるし、一応人並の生活が出来そうにも思へる。同じ人間でありながら日向で働く者と日蔭で働く者との差がそれだけ命じたわけでもなく、命ぜられたわけでもなく志願したわけでもないのに何時の間にか外野手が現れたり捕手が生れたり、内野手や上野手が現れたりして一廉のメンバへ入つたからと云つて多少働く上にはゆとりは出るかも知れないが、やっぱり其の役割は以前と変わるわけのものではない。それだけに私共は斯うした役割を自覚して働らき続けて行かれる皆さんに改めて感謝と敬意を表したい。



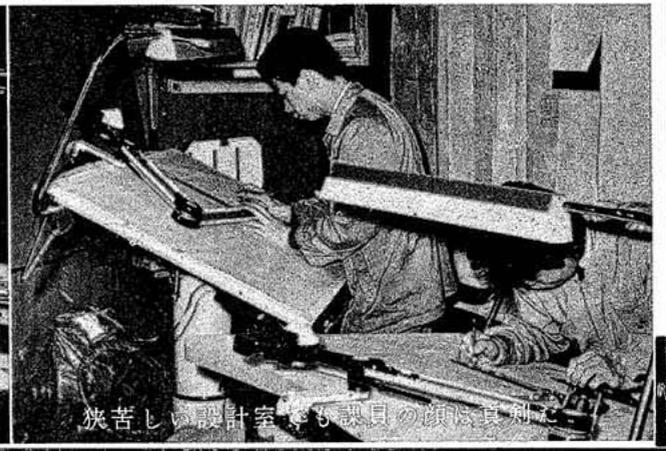
荷造から検査 (分室)



修理室で作業中 (分室)



修理完了、試運転、配達 (分室)



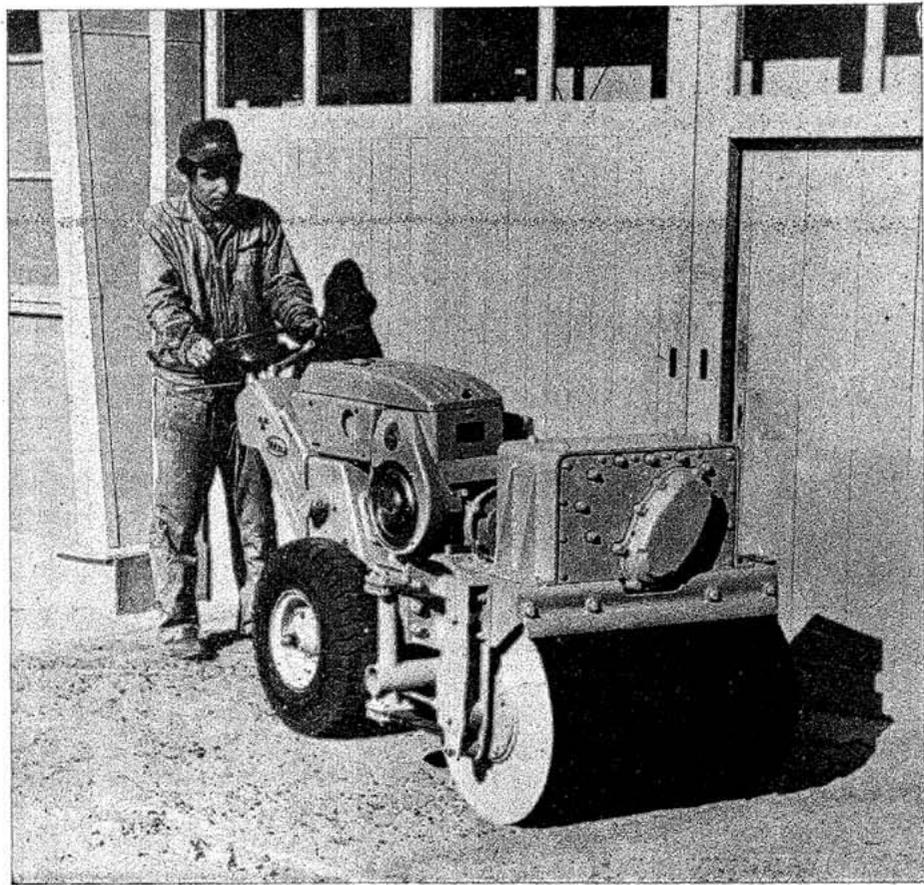
狭苦しい設計室でも課員の顔は真剣

三笠インパクト

ローラー出現す

弊社ではかつて皆さんに中型建設機械メーカーとして発足する旨発表して以来、従来のコンクリートバイブレーター(コンクリート振動機)の製造に加えて、更に、タンピングランマー、バイプロコンバクター等の輾圧機械を製造して参りましたが、昨年末埼玉春日部市に弊社の第二工場とも云うべき春日部工場を新築しましたので、取りあえず其の開始としてインパクトローラーを生産することに致しました。弊社は皆御承知の様に振動機(バイブレーター)輾圧機(タンピングランマー)及びバイプロコンバクター等の専門メーカーとして多年にわたる実地経験と幾多の技術的研究を重ねて参りました結果、これ等各機械の振動力と輾圧力とのバランスをあらゆる角度から検討し、これにローラーの自重を加算して完成したのが、今年度の新製品とも云うべき弊社独自の小型インパクトローラー、中型バイブレーションローラーでございます。

従って本機は遠心力を利用して被輾圧物に強大な振動と衝撃を与え小型のものでも其の輾圧力は極めて大きく一〇噸ローラーにも匹敵する性能を持つて居ります。
 中型機の方はこれをバイブレーションローラーと呼び機上から操作するようにしてあります。
 小型インパクトローラーの特徴
 (1)ローラーの上部に取付けられた振動体は上下のみ振動し、ローラーを支持している板バネと同調して遠心力が倍加され大きな輾圧力が生まれるようにしてある。
 (2)ホイールベースが短いので方向転換の半径が小さいから狭い作業場には便利である。
 (3)振動軸が横に出ているので高いところにあるから障害物にぶつからないのとローラーの巾いっばいに作業が出来る。
 (4)Vベルト伝導が少なく殆ど直結にしてある。
 (5)小型軽量のため移動に便利である。



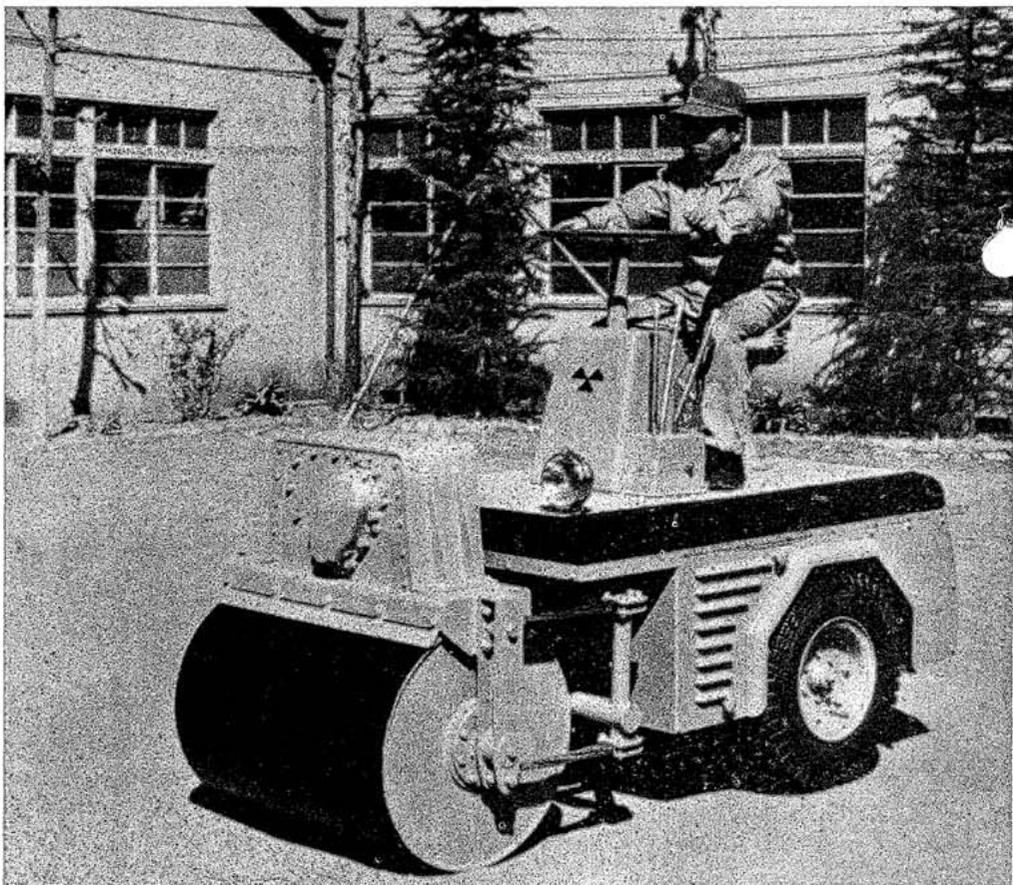
小型インパクトローラーの仕様

型式	小型
ローラーの寸法	径 520mm 巾 700mm
自重	950 V.P.M
振動数	700 kg
輾圧力	10 ton (前後共)
方向転換(半径)	低速17% 高速35%
原動機	1.8m
燃料消費量	6 P.S
電略	1.4 L/H
	インパ

(6)アス 舗装にも使える。
 中型バイブレーションローラーの特徴
 (1)普通のロードローラーが入れない盛土の上や軟弱な路盤でも容易に入れて、強い上下動の遠心力で完全に輾圧効果をあげることが出来る。
 (2)四ヶ所の板バネと特殊防振装置とにより搭乗者に振動が伝わらないようにしてある。
 (3)振動体がローラーの上部に有つて、振動軸が横に出ているからローラーの巾いっばいに作業が出来る。
 (4)ホイールベースが短かいので機敏に動くことが出来るので移動速度が早いから能率的である。
 以上のように各機それれに優れた特徴を持つて居ります。本機は総て工場に於て試運転の結果得たデータですが、量産に入つて愈々市販されるのは六月上旬頃になる予定ですからおそくそれまでには更に改良が加えられ再々度の試験が重ねられて完璧を期することになると思ひます。
 春日部工場は昨年の十二月二十一日に落成式を挙げ亀戸のサービス工場を閉鎖して機械だけを新工場へ移しながら生産を続けていたもので多少の無理もあつたようですが、今ではすっかり内容も整備され、何時でも量産体勢に入れる段取りが済んだので、小型、中型のローラーの生産に本腰を入れることになりました。
 御承知でもございましょうが、亀戸に在つた頃の工場は所謂サービス工場としての修理工的な仕事が多であつて、最初の内は余り決つた製品は手掛けて居りませんでした。ところが館林工場が中型ロードフィンチャーやタンピングランマー、バイプロコンバクター等を次々と生産する様になつて手が廻らなくなつて来たので館林工場の生産品の一部を亀戸へ廻して協力させていたわけでした。ところが何分にも工場が狭く増築の余地も全くないので、思い切つてこれを他に移し、三笠の生産陣営に入れ大いに能率を上げさせようとする事となつて東京と館林の中間に当る春日部市へ移つた次第です。
 現在同工場生産している製品は左のものです。
 一、各種平面振動機 一、コンクリートカッター 一、パワーローウエル 一、ハンドフィンチャー 一、インパクトローラー

中型バイブレーションローラーの仕様

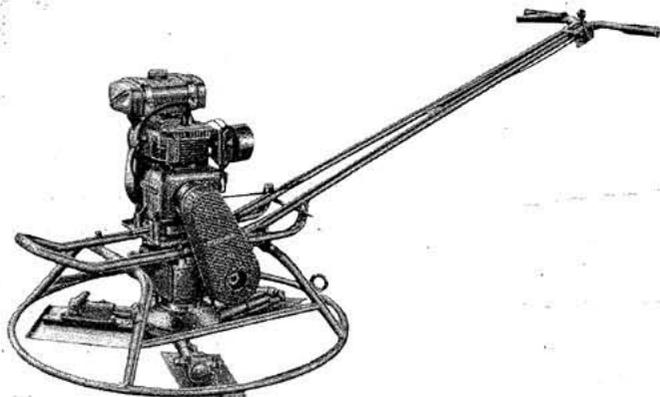
型式	中型	速度(前後共)
ローラーの寸法	径 650mm 巾 850mm	低速17% 高速35%
自重	1,500 kg	原動機 8 P.S ディーゼルエンジン
振動数	950 V.P.M	
輾圧力	1,500 kg	燃料消費量 2 L/H
	12 ton	回転数 2,000 R.P.M.
		電略 ロハイ



コンクリート

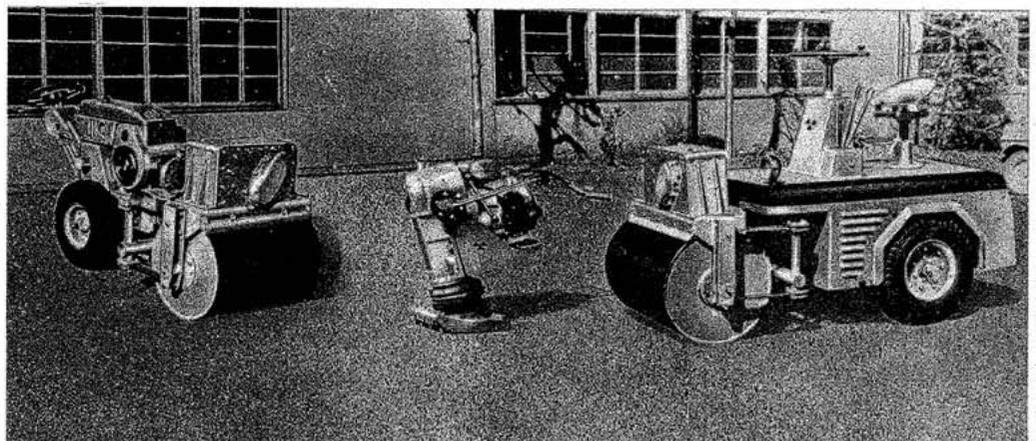
鏝仕上機発売中

パワーローウエル



工場、ビル、倉庫、運動場、駐車場等の床面をコンクリートで打設した跡を更に美しく仕上げる理想的な仕上げ機です。

回転翼の直径	ブレードの寸法	使用エンジン	概重量	電略
980mm (39")	330mm×178mm(3枚)	ミカサ2.5P.S	70kg	ハワト

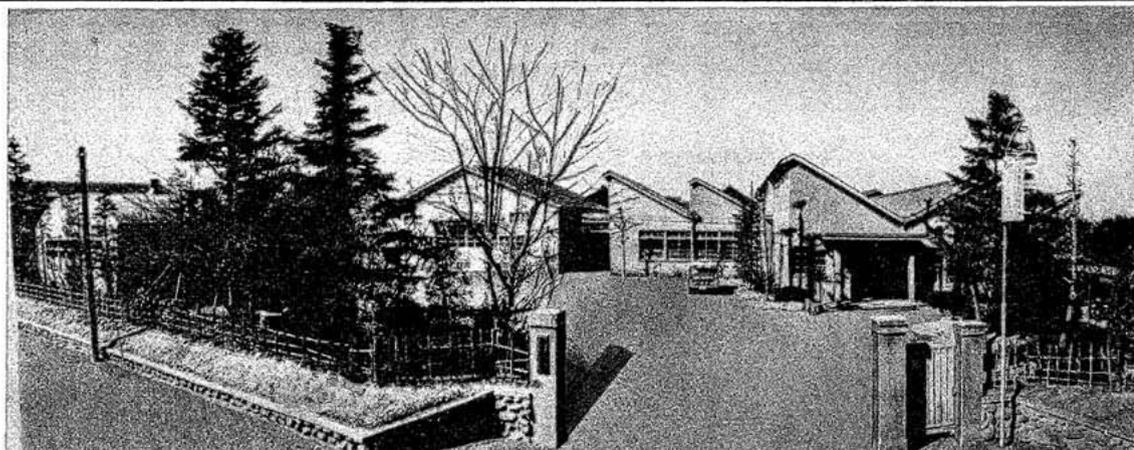


(新製品三台を並べる)

館林工場の初午祭

二月八日館林工場に於て恒例の初午祭が催された。尾曳稲荷の田島宮司の司祭で遠藤館林市長外、市の名士多数が御出席され、いと和やかな稲荷講ではあった。朝から鳴り渡る太鼓に近所の子供達が勢揃い集まって来て初午にふさわしい雰囲気がかもし出されて、そぞろ幼き頃を思い出して非常に懐しいものがあった。

(木の間がくれの館林工場)



(館林工場の初午祭と来賓諸氏)



小林館林工場長



長谷川春日部工場長

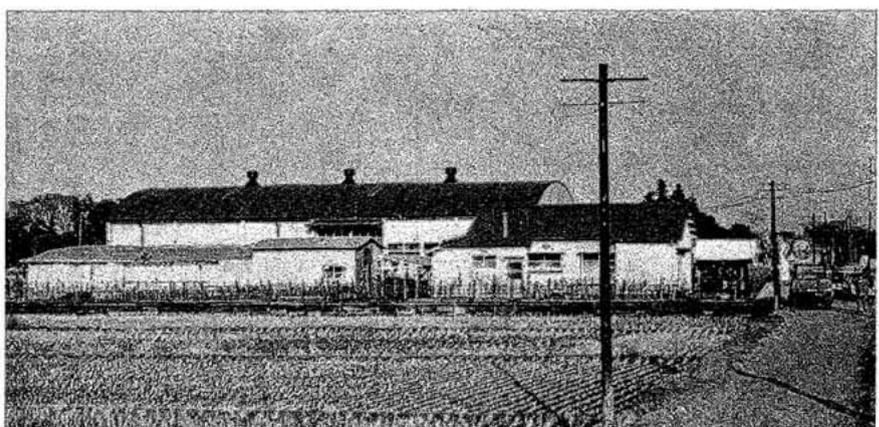
豊川稲荷は我が社の守神である。館林の工場にお祈りしてあるものは、元東京都内板橋の我が社の工場に在ったもので戦時中は多くの社員が此の社前にぬかき武運長久を祈つて次々と出征して行ったものである。その御加護によるわけでもあるまいが、一人の戦死者も傷病も出なかつたのだから単なる幸運と云うことで片付けて仕舞う訳にも行かない。其の外にも数え上げれば摩訶不思議なことがいくつもあった、だがそれは信ずる者にのみ与えられる功德であるかも知れないから、此処に公開することは避けた。

春日部工場初午祭

工場が出来て間もないので、何から何まで新しくくめで、寒空にはためく幟も真新しく初午祭らしい気分が工場全体を包んでいた。春日部八幡の押田宮司の司祭で式はいとも厳肅に取り行われ、春日部市長代理皆川総務課長を始め久保谷市会議長等多数の参詣者があつた。はるばる館林から遠藤信用金庫理事長も御出席下された。

此処で春日部の沿革を少々申述べて見たいと思う。

春日部市は人口四万程で、東武鉄道と船橋線(大宮-船橋)の交叉点に位し、埼玉県の東部千葉県に近い古利根の川沿いにある穀倉地帯の中央部になつて、昔は奥州街道の宿場として、また米の集散地として船便により江戸との交易を計るなど、商業の中心地として繁昌していたのである。古くから桐簾筒、桐小箱、桐下駄、羽子板などの桐製品の特産物で知られ又麦藁帽子の産地でもある。有名な牛島の藤は春日部駅の東方二キロほどの牛島と云う里の紫藤園と云う庭園に有る、藤は樹齡一千年といわれ、一株の藤のからみ合っている根本の周囲が九米もあると云うことである。藤の総面積凡そ二〇〇余坪、棚



(春日部工場の遠景)

垂れ下がって咲き乱れている様は正に壮観其のものであり実に日本一の名にふさわしい。現在東京日比谷から地下鉄が直ぐ手前の北越ヶ谷まで来ているから、もうすぐ春日部まで延長されようである。そうなるとう東京からの足の便は一段とよくなり再び往時の春日部の繁栄さを取り戻すことであろう。

三笠ばやし

- 一、三笠ばやしで 手ぶようしとれば そろたそろたよ 笑顔がそろた さあさ踊ろよ 初午さままだ ほんに三笠は
- 二、三笠ばやしで 一声上げりや 可愛いあの娘の えくぼが笑ふ きかせやりたや 自慢の節を ほんに三笠は
- 三、三笠ばやしで 心もおどりや 花も舞ひます 三笠の上に チラリチラチラ ホラ花吹雪 ほんに三笠は
- 四、三笠ばやしで 踊つてふけりや とけてうれし まん丸月夜 あすも元気で やらうじやないか ほんに三笠は

(春日部工場の稲荷祭)



三笠産業俳句

- 穂波 選
- 磯部健一郎
- 故郷の梅のたよりと知人の計
- 春浅きまといに映ゆる火の赤く
- 京谷達也
- 山焼く煙り今朝も静かに流れゆく
- 吉田謙二
- 帰るには早き銀座に春の雨
- 川口孝行
- それく商談ありてパーは春
- 吉原悦子
- ほろ酔うて皆親しかり春の夜
- 吉原悦子
- 窓ごしに明るく映えさくら草
- 長谷川金雄
- 早春の雲純白に午後逢わむ
- 長谷川金雄
- 芽ふくまぶし機械場を出て憩う
- 村松春陽
- 峰々の光りに続く麦生かな
- 三笠の光りに続く麦生かな
- 三笠の出窓の鉢に春を知り
- 石垣の蜃蜃に春の薄日射す
- 春の宵ネオンは何時か雨となり
- 春愁や振り返り見る己が年
- 東風吹くや明日の完成急ぐビル
- 佳作
- 長谷川金雄
- 一本の芽に朝の目を奪われし
- 若々しい木の芽恰も其処に朝の目が集まつたかの様に見えたのであろう、それを作者は更に誇張して「奪れし」と大胆に表現したところが面白い
- 吉原悦子
- 芽柳や雨に風出て駅遠し
- 通い馴れた道だから遠い筈はないだが久方振りの雨で傘も持たず家路へ急ぐ気持が芽柳の風にゆるる風情と共によく現われている
- 吉田謙二
- 手繰り寄せる糸にも春の陽の光り
- かかつたとばかり急ぎ糸を手繰り初めた、だがそれもやがて途中からスウィーと手応えがなくなつてしまつた。しかし空しく手繰られてくる道糸には春のしずくが光つていた。
- 選後吟
- 開けゆく郊外
- 梅早しそら家建ち農夫肥ゆ
- ブレナーの唸り春泥の村落ち着かづ

俳句募集

当季雑詠 一人 五句以内
用紙 ハガキ又は便箋縦書
締切 五月十日
佳作には薄謝を呈す
次号(七月)に発表

三笠総合型録表紙写真入選者発表

- 一位 (首都高道路) 堀江光男君
- 二位 (東京ビル街) 京谷達也君
- 三位 (東京港湾) 平戸昭次君
- 四位 (東京地下鉄) 星野精士君

三笠「笠友会」の総会開く

三笠産業に出入りする下請業者により結成された笠友会では年番幹事富士機工社竹田課長の企画に基づき本年は伊豆の今井浜を運び、去る三月十七日の日曜日から翌月曜日にかけて、同所今井浜に於て総会を開き、引続き懇親会に入り宿泊の上、翌朝貸切バスで下田、堂ヶ島、修善寺などを遊覧して夕刻沼津駅で解散した。

総会の席上で次期から会長を置くことに満場一致で決し、会長には桜電機株式会社社長長藤弘氏が就任された。三笠側からは京谷社長外、村松、京谷、吉田の各部長、小林館林、長谷川春日部の両工場長、平戸、星野の両課長に川口斉藤の両資材係長が参加された。席上竹田幹事長から新会員の紹介などがあつて、懇親会は夜の更なるも忘れて一同大いにはしゃぎ合った。

翌朝は夜来の雨がすつかり上がり暖かいピクニック日和に恵まれ一行は終始和気霽々として風光明媚な伊豆の景色を心行くまで感賞することが出来た。此処に筆者は竹田幹事長のお骨折りに対し深甚なる謝意を表すると共に当日臨時幹事として御協力された大工業の斉藤氏と斉藤製作所の斉藤所長の労を多と致します。

次期新役員は次の通り

- 会長 桜電機(株) 社長 加藤 弘
- 幹事 田磨ス工業(株) 社長 田磨 秀次
- 中央螺旋管工 社長 田口 義雄
- 福岡製作所 代表者 福岡 末男
- 三笠産業 第一販売 平戸 昭次
- 参加会社(順不同) 桜電機、中央螺旋、田磨フレックス、富士機工社、富士重工、杉谷金属、昭南発条、田沼製作、斉藤機械、福岡製作、柿沼製作、栄光商会、佐藤機械、大工業、小林木工、三洋機械、泉田工業、長瀬商店、金子製作。
- (今井浜にて撮す)

